

二〇〇四年第3回定例市議会

福田明市議の一般質問から

九月議会における福田明市議の一般質問の概要を紹介します。

暮らしの相談に市は親身になって

「福田明議員」最近、私のところに「一人暮らしだが、病気で身体が弱くて働けない」、また「妻が脳梗塞で倒れて入院したが、入院費が払えない」と、生活保護の相談にみえる方が多くなっている。北茨城市の生活保護の受給率は、高萩市の約半分で、県北では最も少ない受給率である。しかし市民の所得は低く、高齢者の一人暮らしも多いわけで、実際には生活保護を受けられる方々が、相談のすべを知らずに申請に來ない可能性がある。

市の今年の受給者数と受給率はいくらか。県平均よりも下回っている受給率をどのように分析しているのか。そして、生活保護の受給基準とはどういうものか。

「市民福祉部長」今年の八月現在、市の被保護世帯数は一六四世帯、被保護人員は二〇六人で保護

保護受給率の各市の比較
(平成10～14年の平均、人口千人当たり)

水戸市	7.7
高萩市	6.8
日立市	5.9
ひたちなか市	4.0
北茨城市	3.5

(本市は今年8月現在で4.1)



一般質問に立つ福田明市議（9月12日）

率は四・一％、県平均より約一ポイント低い。その要因は家族や地域での結び付きが良い関係であることもひとつと考えている。生活保護の最低生活費は標準三人世帯で二万四一五〇円である。

「福田議員」暮らしなどで心配ごとがあるときは、すぐに市に相談に來てほしいとの姿勢で、生活保護の内容などはもっと広報でも知らせるべきである。

介護保険の減免と特養ホーム計画

「福田議員」介護保険について、①要介護者のサービスを受けている利用者数および利用割合、②要介護別に限度額に対する利用率はいくらか。

また、磯原の大日本地区に特別養護老人ホームの建設計画があると聞くが、その概要及び、開設時期はいつか。

「市民福祉部長」利用者数等について説明する（裏面の表参照）。また、特別養護老人ホームの概要は定員八〇名、ショートステイ定員一〇名、デイサービスセンター利用人員二〇名で平成一八年度内の開設予定である。

「福田議員」介護認定者のうち在宅サービスの未利用者は約五〇％、またサービスを受けている人も限度額にたいして約五〇％の利用額となっている。この理由の一つとして利用料の一割本人負担が重過ぎることが上げられる。県内市町村で広がっている低所得者にたいする利用料、保険料の減免制度を本市としても確立すべきである。

通院助成の早急な改善を求める

「福田議員」障害者の通院助成制度は平成六年に私が当時の豊田市長に質問して実現させたもので、この制度は障害一級または二級の方々が病院に通院する際、年二四回のタクシーの初乗り運賃を助成している。現在、一人暮らしの障害者の方々から月二回は病院に行くので年四八回に増やしてほしいとの切実な要望が出されている。早急に改善すべきである。

「市民福祉部長」助成回数は今後、十分に検討する。

新市立病院には放射線科を

「福田議員」乳がんや市立総合病院に入院している方から「放射線科がないために、入院していても放射線治療のために日製病院か磐城共立病院に治療に行かなければならない。市立病院にも、ぜひ放射線科をつくってほしい」との切々とした訴えがあった。市民が日立市やいわき市に行かなくても安心してがん治療が受けられるよう新市立病院建設（平成二二年着工予定）の際には放射線科を設置するよう強く要望する。